

令和3年2月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	令和3年2月22日(月)		
2 開会及び閉会	開会	14時05分	
	閉会	15時20分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	石井希典	
	委員	片山美香	
	委員	河内智美	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	石井雅裕	教育次長	岡林敏隆
次長(教育総務部長兼務)	赤野政治	学校教育部長	奥橋健介
生涯学習部長	小坂正樹	教育企画総務課係長	矢谷隆宏
就学課長	畑克己	保健体育課長	力竹孝典
保健体育課課長代理	花房明彦	生涯学習課長	淵田裕之
指導課長	谷岡哲郎	指導課教育支援担当課長	渡邊裕一
学校施設課長	戸部三喜	教育研究研修センター	怒田眞由美
市民生活局スポーツ文化部 スポーツ振興課長	藤澤明彦	岡山っ子育成局子育て支援部 こども企画総務課長	藤井勝
岡山っ子育成局子育て支援部 地域子育て支援課長	藤原恵子	岡山っ子育成局保育・幼児教育 部幼保運営課長	福田広志
岡山っ子育成局保育・幼児教育 部こども園推進課課長	田中哲也		
事務局 (教育企画総務課課長補佐)	井本浩行	事務局 (教育企画総務課指導副主査)	岡崎主馬
5 議題及び結果			
報告第2号	専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
報告第3号	専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
報告第4号	専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
報告第5号	専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
報告第6号	専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
報告第7号	専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
報告第8号	専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	

6 教育長等の報告 [令和3年1月9日(土)～令和3年2月12日(金)]	
2/4	どろんこ教育賞表彰式 指導課
教育長 指導課指導副主 査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日程第3、事業報告について指導課から願うする。 ○ 指導課である。失礼する。 1月22日にご報告させていただいたどろんこ教育賞特別賞であるが、2月4日に滞りなく表彰式を終えることができた。欠席者が1人いたが、その他の皆さんは出席をされて、団体代表として中学生が挨拶、それから、園児からもお礼の言葉をいただくことができた。大変よい会になったと思っている。来年も引き続き募集をしていきたい。
7 議事の概要	
教育長 教育長 全委員 教育長 教育企画総務課 係長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2月の岡山市教育委員会定例会を開会する。 傍聴希望者はいない。 ○ 日程第1、会期について、本日1日限りとしてよろしいか。 ○ 〈承認〉 ○ 本日1日限りとする。 こちらに1月の定例会の議事録があるので、ご覧いただき、問題がなければご署名をお願いします。 それでは日程第4に入る。報告第2号、教育企画総務課から報告をお願いします。 ○ 資料の1ページ、報告第2号専決処理の報告についてご説明する。 このたび令和3年度岡山市一般会計予算案のうち教育委員会分の教育費予算案への同意について、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、2月10日に専決処理をしたものである。 内容について、資料の2ページ、令和3年度岡山市一般会計予算(案)の概要についてをご覧いただきたい。 こちらは第10款教育費の目別歳出予算額の表であるが、教育委員会関係の令和3年度の一般会計歳出予算の合計額は前年度比で1億8,163万4,000円、率にして0.4%増の490億3,689万円となっている。このうち昨年度に比べて増減が大きい項目の主なものについてご説明する。 まず、第1項教育総務費、第5目事務局費の増は、ICT支援員の配置やヘルプデスクの増員など、GIGAスクール構想に係る事業費等の増加によるものである。 第5項小学校費、第5目教育振興費の減は、小学校の教科書採択替えに伴う教師用教科書、指導書の整備を令和2年度に行ったことによる事業費等の減少によるものである。 同じく第5項小学校費、第10目学校建設費の増は、山南義務教育学校(仮称)の設立に伴う校舎整備等に係る事業費の増加によるものである。 第10項中学校費、第5目教育振興費の増は、中学校の教科書採択替えに伴う教師用教科書、指導書の整備を行うことによる事業費等の増加によるものである。 第20項幼稚園費、第1目幼稚園管理費の減は、幼稚園の民営の認定こども園への移行等による人件費の減少によるものである。 第25項社会教育費、第10目公民館費の増は、上道公民館建設事業費の増加によるものである。 同じく第25項社会教育費、第15目図書館費の増は、中央図書館の長寿命化改修に係る事業費等の増加によるものである。 同じく第25項社会教育費、第35目美術館費の増は、オリエント美術館の長寿命化改修に係る事業費等の増加によるものである。

第30項保健体育費、第15目学校給食費の増は、岡山学校給食センターの移転建て替えに係る事業費等の増加によるものである。

増減が大きい項目の主なものについては以上である。

次に、3ページをご覧ください。

こちらは、教育委員会関係の令和3年度当初予算（案）における主要施策・事業について、後期中期計画案に掲げる政策レベルで分類し記載したものである。予算編成に当たっては、引き続き岡山市教育大綱の目標として掲げる学力の向上と問題行動等の防止及び解決に関連する事業に重点を置くとともに、GIGAスクール構想の実現に向けた学校への支援等を図っている。

まず、1番目、知・徳・体の調和のとれた自立に向かって成長する子どもの育成の項として、①学力向上推進プロジェクトでは、岡山市独自の学力調査である岡山市学力アセスや全国学力・学習状況調査を活用し、教員の授業改善や児童・生徒の学習改善を図るとともに、学習支援ソフトを活用することで教員の教材作成の負担軽減を支援する。また、英語のデジタル教科書を小学校5、6年生及び中学校に導入し、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことのできる授業を実践する。

②英語教育推進事業は、外国語指導助手の派遣のほか、英語担当教員英語力向上事業等で教員の英語力向上を図ることにより児童・生徒の学力の向上を推進するものである。

③生徒指導関係事業は、学校生活への適応感について質問紙を用いて把握し、学級づくりに活用するものである。

④特別支援教育支援員配置事業は、障害のある児童・生徒が安心して学校で生活を送るために、学校の支援体制の充実を図るものである。

⑤不登校児童生徒支援員配置事業は、不登校の未然防止を図るため、支援員を配置し、通学支援や別室登校の児童・生徒に対する支援を行うものである。

⑥スクールカウンセラー配置事業は、いじめ、暴力行為、不登校などの課題に対しスクールカウンセラーを配置し、児童・生徒や保護者が相談しやすい体制の充実を図るものである。

⑦GIGAスクール構想によるICT活用支援事業は、ICT支援員の配置やヘルプデスクの増員により、授業づくりや機械等のトラブルに対する支援を行うものである。また、臨時休業した場合のモバイルルーターの貸出しや授業での様々な著作物を円滑に利用するための授業目的公衆送信補償金の支払いを行うなど、GIGAスクール構想の実現に向けて人的支援や運用支援を行う。

資料の4ページをご覧ください。

2番目、家庭・学校・地域が協働で進める教育力の向上の項で、⑧山南義務教育学校（仮称）整備事業は、山南中学校区の4小学校及び中学校を統合し新たに義務教育学校を設立することで、学校規模の適正化、特色ある教育による教育環境の向上を図るものである。

⑨学校給食の公会計は、教職員が子ども一人一人と向き合う時間等を確保するため、学校単位で行っている給食会計の公会計化を行うものである。

⑩新岡山学校給食センター（仮称）整備事業は、老朽化した岡山学校給食センターの移転建て替えによる整備を行うものである。

3番目、生涯にわたる豊かな学びの充実の項として、⑪上道公民館建設事業は、上道公民館を上道地域センターとの複合化により移転整備するものである。

4番目、歴史・文化による新たな魅力の創出と発信の項として、⑫史跡造山古墳保存整備事業は、国指定史跡である造山古墳の立体的復元の整備に向けての調査や千足古墳の保存整備を行うものである。

⑬史跡岡山城跡保存整備事業は、岡山城の正面入り口である内下馬門、太鼓やぐらの復元整備に向けた調査や下の段西側の石垣の保存整備を行うもので

<p>教育長 石井委員</p>	<p>ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今の説明について何かご質問、ご意見はないか。 ○ 主要施策事業のうちの1の①のところで英語のデジタル教科書のご説明をいただいたけれども、ここで英語が選ばれている。なぜ英語でデジタル教科書なのかというところのご説明を。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語を選択した理由であるが、全国学力・学習状況調査を行ったところ、偏差値は49であった。若干岡山の子どもたちが苦手としている部分があるというところから、リーディングであったりとか発音であったりとか繰り返し反復の学習ができる、またそれを活用することで子どもたちが主体的に魅力のある授業についていける、先生たちもそういう授業を実践できるというところで学力の向上に努めてまいりたいということから、英語を選んでいる。
<p>石井委員 河内委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有効にご利用いただけたらと思っている。 ○ そのデジタル教科書について追加で教えてほしい。デジタル教科書は各児童・生徒分が入るのか、それとも教室に1つとかそういう形で来るのか。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的には1人1台端末の中に全ての子どもたちに1人ずつ入ってくるというのが大原則で、子どもたち一人一人に入る。それからまず、小学校については、本年度の指導書の中に指導者用のデジタル教科書で使えるようなものが入っているのもう入っているので、まだ有効というところまでは活用されていないかも分からないが、小学校に関してはそういったものも来年度からは使っていけると思う。 <p>それから、中学校に関しては、生徒は当然1人ずつ入るが、先日デモが上がっていて、そのデモによると、子どもたちが使うものもやはり指導者用のほうが少しバージョンアップしている部分があったので、指導者用のデジタル教科書をその予算の枠の中で先生方にお配りができたほうが良いというところで、今そのあたりを考えている。</p> <p>子どもたちは、5年生から中学校3年生まで1人ずつ全て入る。なお、当然であるけれども、紙ベースの教科書も入っている。そういう実態だと思っていたらと思う。</p>
<p>河内委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先ほどのご説明で小学校では指導者用のデジタル教科書が入ってくるということなので、そうした場合は多分大型テレビを使って映し出したりするような活用の仕方になるのかなと思うが、十三、四年前にこのデジタル教科書を使った国語の授業を見たときに、文章を抜き出したものを大型テレビの画面に映して、子どもたちが発言した言葉が大事だというときに、教師が入力するとその文章の色が変わって、そこへ書き込みもできて、そういう使い方ができる。これまで教師が模造紙に1時間の授業場面の教科書の文章を前日までに書き、それを黒板に貼って使っていたり、あるいは大型コピー機にかけて教科書を大きくしたものを掲示して、それで授業をしたりする、そういう手間が省けて、また汚くならず子どもたちに分かりやすく示せるという意味ではすごく効果があるなと思った。これは中学校でもそういった活用というのはすごく求められているのかなという感じがするので、中学校のほうも整備されたらよいなという感想を持った。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導課でも実はそのように考えており、予算の2,200万円の中で、中学校にも指導者用のデジタル教科書が購入できないかというところで今検討している。財政とも協議をしていて、何とか2,200万円の中に入るのはないかということで、今おっしゃったような活用をぜひ来年度していきたいと思っているし、デジタル教科書だけではなく、今まである大型テレビであるとかそういったものもしっかり活用していきながら、全てのICTを活用して学力の向上につなげていきたいと考えている。
<p>片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今と同じ表になるけれども、5番と6番の不登校児童生徒支援員配置事業とスクールカウンセラーのことについてお尋ねしたいのだが、岡山市は不登校について、来年度に向けて長期的に減らしていくという施策が必要かと思う。

<p>教育支援担当課長</p>	<p>その配置されている内容というのをここに記載してくださっているのだが、もう少しそれぞれの事業の目的というか、5番ではどういうことを狙い、6番ではどういうことを狙っているかということをお教えいただければと思う。</p>
<p>片山委員</p>	<p>○ 5番の不登校児童生徒支援員の配置については、現在、来年度については今年度並みの配置が可能というふうに考えている。小学校については家庭訪問や朝子どもを迎えに行くということも含めて、学校へ来にくい子どもに声を掛けて登校を促していくようなこと、それから学校に来て教室に入りにくい子どもについて別室での見守りというふうなことが中心になる。中学校については、別室での見守りというところが中心の活動ということになると思う。</p> <p>スクールカウンセラーについては、小学校36校と中学校37校と高校1校に常時、月に4日、週1日で配置をしている。小学校のほうでは、その中学校区に1人は配置しているので、その方が週のうちの1回もしくは2回は別の学校に出向くことで全ての学校でのスクールカウンセラーとのカウンセリングが可能という形にしている。これは、相談内容については様々であるけれども、保護者や子どもが相談をしたいということをお事前に担当へ予約を取るという形でカウンセリングをしている。それから、急な対応でどうしても心のケアが必要な場合には、緊急にカウンセラーを学校に派遣をして相談ができる体制というのを整えている。</p>
<p>教育支援担当課長</p>	<p>○ 相当な予算もついていることだし、より先生方の働き方改革、先生でないとできないところとそうではない人でも応援ができるところとうまく協働してもらいながら、何とかこの予算が有効に活用されて、不登校のお子さんが減っていくことを願いたい。あとスクールソーシャルワーカーが配置されている都道府県も結構あるかと思う。スクールソーシャルワーカーだと、今経済的に厳しいご家庭のお子さんへ動いて一緒に改善に向けていくという形では、カウンセラーももちろん専門性は高く、いろいろあると思うけれども、スクールソーシャルワーカーだからこそできる部分と、福祉の観点がいずれ学校の中に入っていくということですのでごく期待されて、それなりに成果を上げられているというようなことも聞いたりする。そういった方の今後の配置とか、このあたりに入ってくる予定というのは特にはないのか。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 不登校支援員とスクールカウンセラーについては、子どもたちの登校に向けてしっかりと配置をしていきたいと思っている。</p> <p>スクールソーシャルワーカーだが、岡山市の場合には、この予算を立てているのは岡山っ子育成局であるが、子ども相談主事という立場の方を各福祉事務所に3人ずつ置いており、18人の子ども相談主事がいる。その方の多くは再任用の元校長で、月に2回だけであるが学校へ半日勤務をしていただいている。必要に応じて電話であったり、学校を訪問して子どもの様子を見取ったりとか、担任から情報を聞き取って地域子ども相談センターに持ち帰って、家庭のほうへの支援というものをどのようにしていくかということをお福祉の観点と教育の観点、両方から見取っていくという形で学校と情報交換をしながら進めているというところである。学校の内容をよく知っておられる元校長であるので、学校の実情も踏まえながら福祉の観点をしっかり入れていくというところで非常に効果的に学校のほうに入ってもらっていると感じている。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 重複するかもしれないが、⑦のGIGAスクール構想というのは、これは国全体で目玉になってる上に、各自治体の中でその取り組み方というのがそれぞれ異なるという意味でいうと、各自治体間で若干差が出やすく、しかも目立ちやすいという内容になると思う。岡山市は今、他の自治体と比べてこんな特徴があるとか、こういうところを目指しているんだとか、あるいは予算規模がほかと比べてあまりに少ないとか多過ぎるとか、そういう何か相対的に見たときにどういう位置づけにあるんだろうというのを知りたい。これからという部分が大きいとは思うが、現時点の中でお話しいただければ教えていただきたい。</p>

教育研究研修センター所長	<p>○ 予算規模は全部のところは把握できていないが、政令市を対象に支援員の配置であったり、それから例えばインターネットの関係でモバイルルーターの貸出しだったりとかそういった状況調査はしたことがある。支援員では、現在入っていないところも岡山市と一緒に3年度から入れるというところがやはり多い。数としては月2回ぐらいを考えてはいるが、国が言っているのは4校に1人なので、本当は週に1回ぐらいの割合になるのだが、政令市の場合はやはり数が多い分、回数としては岡山市と似たようなところが多いかなという印象である。GIGAスクールサポーターを今入れているが、これについてはほかの自治体には入っていないところも半分ぐらいあって、そういった意味ではちょっと早く動いていて、GIGAスクールにおいて機器やネットワークも今までずっと岡山市は遅れていると言われていたのが、今回、他の市よりも早めで、今年度中にはもう全部入れるというような流れになっている。人的な支援においても、GIGAスクールサポーターを入れたことによって、とりあえず設定の準備であるとか教員研修とか、そういうところは他のところに追いついたか進んだか、ということまで来たという気がしている。</p> <p>実際に来年度、情報教育推進室が立ち上がるのだが、なかなかその全部を一体化でしているところは少ないので、そういった意味では一括でしていくというのは岡山市としては来年度の売りではないかなと思っているところである。</p> <p>やはり先ほどのICT支援員もそうだけれども、教育委員会が学校を直接支援するような体制をつくることもできるので、例えば指導主事がしっかりフォローするとか、機器のほうはヘルプデスクを増員するのでそういったトラブル対応をするとか、先生たちに使ってもらえるような支援は何ができるのかということが一番考えていきたい。</p>
石井委員 河内委員	<p>○ 負担が多いと思うけれども、ぜひよろしく願います。</p> <p>○ 同じところで、ICT支援員とICTヘルプデスクの人数の内訳はどのようになっているか。</p>
教育研究研修センター所長	<p>○ ICT支援員のほうは先ほど申し上げた月2回程度入れるようにということで業務委託を考えており、15人程度になるのではないかと今のところ予想をしている。</p>
就学課長	<p>○ ICTヘルプデスクであるが、現在まで2人ということで外部委託をしている。来年度からは3人増やして合計5名ということで考えている。こちらの予算は3人分だけを計上しており、従来からの2人分というのは予算のほうからは外している。</p>
河内委員	<p>○ それだけで十分回ることができるか。そのICT支援員の仕事内容とヘルプデスクの仕事内容というのはどのようなさび分けをするのか。</p>
就学課長	<p>○ ICT支援員は言ってみればソフト面、どういった授業をやっていくのか、また、授業でこういったソフトを活用するためにはどういうふうになればいいのかというようなアドバイスをしてくれる人というのを想定している。これに対してICTヘルプデスクはハード面ということで、パソコンが立ち上がらないであるとか印刷ができないとかインターネットにつながらないとか様々なトラブルに対応する人というふうにご理解いただければと思う。</p>
河内委員	<p>○ 多分そのヘルプデスクの活用頻度は、これまで2人のときもものすごく大きかったのではないかなと。なかなか言ってもすぐには対応できないというようなこともあったのかなと思うのだが、さらにもものすごい数のサポートとなると、この5人で全学校を十分賄えるのかなというのが気にはなったのだが、これはどうか。</p>
就学課長	<p>○ 実際には全ての案件で学校を回るのではなくて、軽易な件、電話で済むようなものは電話で対応させていただいている。そういったことも含めて5人いれば何とかいけるだろうという判断をさせていただいている。</p>
河内委員	<p>○ スムーズに活用ができて、トラブル等がなくて、どんどん授業の中に十分活用できるようなスタートができたらいいなかなと思っている。</p>

	<p>それから、臨時休業時においてモバイルルーターを貸し出すということであるが、これは家庭の中に環境が整ってない児童・生徒に貸し出すということではないか。</p>
<p>就学課長 河内委員</p>	<p>○ そのとおりである。 ○ 臨時休業に限らず、例えば不登校の児童・生徒、こうしたところに、ある程度ソフトも今度充実してくると思うので、そういう貸出しというのが可能であるか。</p>
<p>就学課長</p>	<p>○ まず、機械に慣れていただくということを第一に考えておるので、令和3年度では緊急時ということ想定させていただいておるが、将来的には先ほどデジタル教科書の話も出ていたが、持って帰らないと授業、勉強ができない、そういう時代になってくると思うので、何とか早く対応できるように考えたいとは思っている。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ ぜひ不登校児童・生徒の環境を整えるということで、そちらのほうもお考えいただけたらありがたいと思っている。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 9番の給食の公会計化で、たしか約半数ぐらいの自治体が公会計化しており、今その流れの一つだと思っているけれども、公会計化することの価値がこれだけあるというご説明をいただけたらと思う。</p>
<p>保健体育課長</p>	<p>○ 公会計化のところで学校の大変さというところであるが、給食会計というのはそれぞれ学校ごとであり、その給食会計の中で、特に私会計であるので、どういうふうな会計にしているのか、あるいは一番大変だと聞いているのは払ってもらえないところの対応というところだと思うので、それも今後学校に入りながらお話を聞いて考えていきたいと考えている。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 今回の公会計化することによって、先生方の子ども一人一人に向き合う時間が確保されるという意味においてすごく価値があるということではないか。</p>
<p>保健体育課長</p>	<p>○ そのとおりで、働き方改革の一環という、長時間労働の一端というところもあるので、学校からのお声をお聞きすると、非常に喜んでいうふうなことで、相当部分負担があったのだろうと思っている。今後、学校とも連携して公会計化というのを進めないといけないと思っているので、学校でお願いしないといけないこと、あるいはうちのほうでやっていかないといけないこともこれからちょっと整理の必要があると思っている。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 基本的には銀行引き落としで、滞納者がいない、ほとんど完璧に払ってくれるという場合にはあまり先生たちの負担というのは大きくないのだが、まずそういう学校は少なく、滞納者がいて、しかも督促をかなりしないといけない。それから、もし手集金でやっているところはそれぞれの担任が大変なわけであるが、100円足りないとか、そういうことでも若干のトラブルがあるわけで、公会計化ということになれば、そういうことがほとんど解決するのではないかということはある。ただ、滞納者が増えるという心配もなきにしもあらずで、これはないように工夫していかないといけない。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ 同じところで教えていただきたい。公会計化というのは長年にわたって学校が望んでいた方向だと思うが、給食費は今までは各学校によって金額が違ったり、それから給食の回数によって子どもに返金をしたりと、複雑な会計処理があったと思う。それを公会計の中で細かいものやっぺいこうと思うと、栄養士さんへの負担というのがかえって相当大きくなるのかなと思ったのだが、その点はいかがか。</p>
<p>保健体育課長</p>	<p>○ 今のご懸念はごもっともだと思う。今はまだこれからということではあるが、まず金額については全校一律を今のところは考えている。公会計化であるので、その金額というのは統一が必要だろうと思っている。 それから、学校行事によって若干凸凹という部分が出ると思う。喫食回数によっての徴収というのは今後も必要になってくるというふうな思うので、その辺は教育委員会と学校との連携でやっていかないといけないと思っている。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ 今本当に栄養士が掛け持ちになったり、いろんな状況の変化で、ますます負</p>

<p>学校施設課長</p>	<p>担が大きくなったりして、そういう中でさらにその負担が増えるということではできるだけ避けて進めていただけたらと思う。</p> <p>続けて8番の山南義務教育学校の整備事業費で、これはハード面の予算化ということだと思えるけれども、義務教育学校となるとやはりすごく注目されるのがカリキュラムをどうするかというところではないかなと思っている。このカリキュラムをつくっていく上で、第1項の第5目ぐらいに予算というのが含まれているのか。</p> <p>○ 今こちらに上げさせていただいている13億8,000円については、今おっしゃった事業費、建築のハード面の工事費及び保健体育課関係の給食棟の整備であるとか、基本的に全てが事業のほうであって、おっしゃられたカリキュラム等についてはこの事業費の中には含まれてはいない。</p>
<p>教育長 河内委員</p>	<p>○ 特にソフト面では予算はない。</p> <p>○ つけないで行う、ということは、事務局とか学校の教職員でもってつくるといふことか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 今教育長が言われたとおり予算面では上げていないけれども、既にもう本年度も最低でも月1回ぐらいは小学校、中学校の教務主任の先生、教頭先生、校長先生あたりが集まってくださっていて、ランドデザインは、ほぼ完成をしている。また、教育課程についても、大まかな部分はもう完成をしている。また、学校行事などについても、例えば小学校の4年生と7年生、こういった子どもたちが例えば犬島のほうに行っておかできないかというようなことで先日犬島へ視察に行くなど、そのあたりちょっと前倒しをしながら何とかやっていると。ソフト面に関してはかなりの回数、協議を進めていっているということで、来年度の秋には保護者説明会ができるようなものまで完成していくようなタイムスケジュールだけは立てており、後退しないように着実に進めていきたいと考えている。</p>
<p>河内委員</p>	<p>○ 続いて、11番の上道公民館の建設事業についてお尋ねする。</p> <p>上道公民館が地域センターとの複合化について、この地域センターと複合化している公民館という他の例があるのかどうかということと、それから複合化することによって一般的な公民館単体の公民館とは違った何か特色がある運営を考えているのかどうかをお尋ねしたい。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 今回の上道公民館の建設費は、地域センターとの合築ということである。ほかの公民館の例で言うと、直近では吉備公民館が地域センターと合築、あと、福田の公民館も地域センターが隣にある。それから、今も同じように、新築ではないが、一宮公民館があって、そこへ同じ敷地の中に一宮地域センターが来るというようなことなど、結果として同じ一体的に行政サービスを行うというような例はほかにもある。</p> <p>今回、上道地区においては双方がかなり古い建物であって耐震基準を満たしていないということで、上道地区の中の一番にぎわいの中心地ということで商業施設の隣に用地を取得し、2月から工事に入っている。完工予定は11月末ということで、今工事に着手しているところである。いずれにしてもその地域住民の方を含め、地域センターが来るということは、その上道地区の方だけでなく当然その周辺、通勤途上で通られる方を含めていろんな行政サービスもできると思うので、より一体的に、商業施設が隣にあることも相まって上道の中のにぎわいの中心になっていくのではないかと期待しているところである。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 建物を造るものが今回の予算でいうと何個かあって、金額で見てもそこが占める割合は大きい。それはそれで老朽化したから建て替えなきゃいけないものと、投資価値があってその後のコスト削減を狙うものと、いろんなことが重なって建築案件が増えているのかなというふうにも思う。その建築となると予算規模が大きくなって、ソフト関係の、例えば給食の公会計化などと比べると規模感が全然違うので、ソフト面をたくさん新しく始めることと、建物を建てる</p>

<p>教育次長</p>	<p>こととの違いなど、全体としての考え方というのがもしあれば教えていただきたいなというふうに思う。必要なものを必要な順にやっているということだけかもしれないが、ハード面はやっぱり幾らでもお金は必要になってくると思うので、そういったところの何か考え方というのがあれば教えていただけたらと思う。</p> <p>○ 確かにいろいろ老朽化によって建て替えの時期が迫っている施設が多い。というのが、木造だった建物から鉄筋になったのが昭和50年前後で、当時最先端だった学校施設が今は一番後ろを走っているようなそんな状況になっているというのが一つである。それから、新たな教育課題に対応するというふうな、それが山南義務教育学校だったりするし、また、長寿命化というような課題があったり、いろんなことがここ数年立て続けに起きているのは確かである。その中で有利な地方債を使って事業を行うという期間も限られている中で、どれを優先順位をつけてやっていくかというふうなところで今回のこのような形になっている。まだまだ場所さえあれば教育センターとか大規模校のプレハブの解消であるとか、やらなければいけないこともたくさんあるけれども、ソフト面についても別にお金を節約しているわけではなくて、しっかり考えていかなきゃいけないんだらうというところではあるが、そんな中でさっき指導課長が言っていたように義務教育学校のカリキュラムとかこちらでできるものは当然こちらでやっていく。できないところは出していく。公会計化なんかがそうなのかもしれないけれども、そういったあたりで今回整理をしている。ソフト面であればGIGAスクールが一番大きいのだらうと思う。毎年建設予算はどんどん出てくると思っている。</p> <p>やはり住民であるとか児童・生徒の安全・安心のために校舎とか施設を建て直していく。先ほど言われたように耐用年数が危ない期間に来ていて、ここで大災害か何かがあれば建物が壊れてしまうようなこともあるので、どうしても長寿命化のほうにちょっと軸足がついているのはある。それと、やっぱりハードはお金がかかるのが一番大きい。先ほど言われたようにソフト面については中の人にもできるし、ある程度、今回この公会計については、システムをつくるためのお金であるので、やっぱり何かものをつくるにはお金がかかる部分はある。だから、ソフトのほうをないがしろにしているというわけではないのだが、そちらも含めてよりよい予算の使い方をしていきたいと思う。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 こども企画総務課長</p>	<p>○ 第2号、それでは承認してよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 続いて、報告第3号、これはこども企画総務課から説明をお願いします。</p> <p>○ 令和3年度一般会計当初予算案のうち、岡山っ子育て局分についてご説明する。</p> <p>5ページを開いていただきたい。</p> <p>令和3年度岡山市一般会計予算案のうち、岡山っ子育て局の教育費予算案への同意について、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、専決処分をしたものである。</p> <p>続いて、資料の6ページをご覧ください。</p> <p>岡山っ子育て局における令和3年度の予算は総額で6億1,070万円余で、前年度に比べ金額で6,054万円余、率にして11%の増となっている。主な増減理由としては、次のページ、資料の7ページをご覧ください。</p> <p>教育費の令和3年度当初予算における事務事業について8項目上げさせていただいている。</p> <p>まず、第20項幼稚園費である。</p> <p>1の幼稚園運営経費は、市立幼稚園の運営に係る経費等で、こども園移行に伴い、人件費や光熱費などの運営経費が減額となっている。</p> <p>続いて、2番目の幼稚園施設管理費は、市立幼稚園施設の維持管理に必要な経費等で、こちらもこども園移行に伴い減額となっている。</p>

	<p>続いて、3の就園管理課事務費は、幼稚園事業に係る職員の給与改定等に伴う人件費の増額によるものである。</p> <p>続いて、4番になる。幼保運営化事務費は、幼稚園事業に係る職員の人件費であって、1人増員のための増額となっている。</p> <p>5番目、幼稚園事務費は、幼稚園入園退園及び幼稚園授業料に関する事務費等で、経常経費の見直しに伴って事業費等が減額となっている。</p> <p>続いて、第25項社会教育費である。</p> <p>6番目の次世代育成事務費は、次世代育成事業に関わる職員の人件費であって、職員の人事異動に伴う減額となっている。</p> <p>続いて、7番目、次世代育成体験活動促進事業費は、体験学習活動の推進などの社会教育活動促進のためのものである。令和2年度の新成人の集いを令和3年度に延期して開催するため増額となっている。</p> <p>続いて、8番目、少年自然の家運営費は、少年自然の家、日応寺自然の森の管理運営のためのものである。工事請負費や指定管理委託料の増のため、増額となっている。</p>
<p>教育長 片山委員</p>	<p>○ 何か質問、ご意見などないか。</p> <p>○ 1点お尋ねしたい。幼稚園費の①のところでも市立幼稚園の光熱費、それから特別支援に関する経費、幼稚園教諭の研修に関する経費というところで少し減っているようであるが、この3つ上げている内容の内訳というか、その割合と、それからその減っている理由、どこが減っているのかということと、特別支援員に関する経費については、必要な人材が確保できているのか、ニーズに対しての対応度というか、そのあたりを教えていただければと思う。</p>
	<p>○ まず、減っている理由であるが、これは幼稚園がこども園に変わることによって園数が減ったことによる減額である。それから、それぞれの経費の内訳については、特段昨年度と変わっているものではない。</p> <p>また、特別支援員については、現場からの必要性に応じて我々のほうで判断した上で配置をしており、現状求人すればある程度人が来ているので、必要な採用はできているというふうに考えている。</p>
<p>片山委員</p>	<p>○ その特別支援員に関しては、その現場のニーズというのでは支援が必要なお子さんはすごく増えているということをよく耳にするけれども、基本的には診断のあるお子さんに対しての支援員という理解でよいか。</p>
<p>幼保運営課長 片山委員</p>	<p>○ 基本的には診断のあるお子さんを重点的にやっている。</p> <p>○ では、診断がなくて気になるお子さんで、なかなかその診断を受けていただくというところも難しかったりするだろうし、そのお子さんたちがまた小学校へ上がっていく上でのいろいろ就学前にやっておきたいこと、指導しておきたいことは様々あるかと思うが、そのあたりで現場の先生方のニーズと実際の診断が出てから配置できる人数というあたりでの差というか、そのあたりはどうか、分かれば教えてほしい。</p>
<p>幼保運営課長</p>	<p>○ 現場のほうから、診断が出ていなくても、困っているケースというのは問合せがあるので、我々のほうから現場を見させていただいて、必要であればその支援員を配置しているという現状はある。</p>
<p>片山委員</p>	<p>○ 今、特別支援員として配置されている方の資格や、どういった方がここの経費として計上されているのか、そのあたりを教えてください。</p>
<p>幼保運営課長</p>	<p>○ 特別支援員については、特定の資格を求めているので、報酬としては皆さん一律でお支払いをしている。</p>
<p>片山委員</p>	<p>○ 25の社会教育費の6番のところ、前年度とそんなに予算が違う感じではない、103万円ぐらいの減になっているのだが、ここに書かれている次世代育成事業に携わる職員という、これが具体的にはどんな事業に携わっているのか、分かれば教えてほしい。</p>
<p>地域子育て支援課長</p>	<p>○ 地域子育て支援課のほうに青少年育成係という係があるけれども、そちらに正規の職員が3人いる。内容としては、成人式の開催で運営委員の募集である</p>

<p>教育長 全委員 教育長</p>	<p>とか、その後の企画運営の会の取りまとめであるとか、あとは子ども会の企画、子ども会への助成や、青少年育成事業として、例えばジュニアリーダー、インリーダーという中学生のリーダーを養成する養成講座などの研修希望であるとか、あとは少年自然の家も関係はしてくるけれども、そういう地域子育て支援課で教育費として受け持っていることについて、この3人の職員でやっているの、その経費になっている。</p> <p>○ それでは、報告第3号を承認してよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 報告第3号を承認する。</p>
<p>スポーツ振興課 長</p>	<p>続いて、報告第4号、スポーツ振興課から願います。</p> <p>○ お手元の資料8ページをご覧ください。</p> <p>令和3年度岡山市一般会計予算案のうち、スポーツ振興課分の教育費予算案への同意について、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、令和3年2月10日に専決処理したものである。</p> <p>資料9ページをご覧ください。</p> <p>内容は、第10款教育費中、第30項保健体育費、第5目教育振興費のうち、学校体育施設開放事業に係る施設の電球等消耗品、施設の修繕及び工事、原材料費及び備品購入費等として1,953万9,000円を当初予算として計上するものである。令和2年度当初予算からの増減率としては34.1%の減少で、この主な要因としては工事費の減少によるもので、豊小学校防球ネット改修工事について令和2年度において校庭側及び校舎側に設置することとしておったが、校舎側の防球ネット設置を、児童クラブ移設によって地下埋設の電気の線が配線された後に令和3年度に施工することに計画を変更したためによるものである。この工事費の差額が971万3,000円となっている。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 全委員 教育長</p>	<p>○ 何かご質問、ご意見あるか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、報告第4号を承認してよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ それでは、報告第4号を承認する。</p>
<p>保健体育課長代 理</p>	<p>続いて、報告第5号、保健体育課から願います。</p> <p>○ 令和3年度岡山市学童校外事故共済事業費特別会計予算案の概要について説明する。</p> <p>この事業は、学校管理下外において災害を受けた学童を救済し、学童の健全な育成と福祉の増進に資することを目的として、昭和51年5月から実施をしている制度である。対象者は、義務教育課程在学中の児童・生徒である。</p> <p>資料の10ページをご覧ください。</p> <p>令和3年度岡山市学童校外事故共済事業費特別会計案について、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、2月10日に専決処理をさせていただいた。</p> <p>予算の内容について説明をさせていただく。</p> <p>歳入歳出予算の総額は、それぞれ1,244万円となっている。</p> <p>まず、歳入については、第1款共済会費収入、第1項共済会費収入、第1目共済会費収入1,228万8,000円は、1年間300円の会費収入である。</p> <p>第21款財産収入、第1項財産運用収入、第2目利子及び配当金15万2,000円は、学童校外事故共済基金から生じる預金利子である。</p> <p>次に、歳出については、第1款学童校外事故共済事業費、第1項学童校外事故共済事業費、第1目管理費80万円は、事務費及び基金積立金である。</p> <p>第5目共済事業費1,164万円は、校外事故に対する見舞金である。</p>
<p>教育長 河内委員</p>	<p>○ 報告について何かご質問はあるか。</p> <p>○ 歳入のほうの共済会費収入が令和2年度と大きく変わらない見積になっているが、児童・生徒数、加入者数の減少とかというのはあまり見込まれないと</p>

保健体育課長代理	<p>思われているのか。</p> <p>○ これは岡山市立学校と私立あるいは国立で当然入っていただける学校があるので、予算作成時の推計による人数で今5万7,060人ということで、大きく減ったということではなくて計算をさせていただいている。そのうちの加入率が大体72%ぐらいであるので、4万1,000人弱ぐらいでの見積をさせていただいているという計算である。</p>
河内委員	<p>○ 市立の児童・生徒数というのは結構減少しているのではないかと思うが、ただ、その分私立が増えたり県立が増えたりし、そういうところが他地域から来る生徒なんかも増えて、そんなに減少幅がないというふうに思ったらいいか。</p>
保健体育課長代理	<p>○ 予算を立てる段階においては幾らか減少は当然ある中での計算をさせていただいており、予算作成時であるので10月ぐらいの人数をピックアップさせていただいて、その中で計算している。</p>
教育長 全委員 教育長 教育研究研修センター所長	<p>○ それでは、報告第5号を承認してよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 続いて、報告第6号、教育研究研修センターから願います。</p> <p>○ 12ページをご覧いただきたい。</p>
教育長 河内委員	<p>これは、岡山市教育研究研修センターの事業を改めるため本条例の一部を改正する必要が生じたが、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、令和3年1月28日に専決処理をしたものである。</p> <p>13ページに概要を載せている。このたび情報教育推進室が教育研究研修センターに設置をされるということで、それに伴って事業の中に情報教育等の整備及び情報教育に関することを追記させていただくものである。</p> <p>14ページに新旧対照表をつけているので、ご覧いただけたらと思う。</p>
教育長 河内委員	<p>○ 何かご質問、ご意見はないか。</p> <p>○ 情報教育推進室ができるということは、情報教育の推進にひとつ大きな第一歩を踏み出したな、という感じがしている。ぜひよいスタートを切り、岡山市の情報教育が進展していくような、そういう体制づくりができればいいなと大いに期待しているところである。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>○ それでは、報告第6号を承認してよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 報告第6号を承認する。</p> <p>続いて、報告第7号、こども園推進課から願います。</p>
こども園推進課長	<p>○ 報告第7号である。</p> <p>市議会の議決を経るべき議案、岡山市立認定こども園条例の一部を改正する条例の原案への同意については、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、令和3年1月28日に専決処理をしたものである。</p> <p>内容については、令和3年4月1日に開園する市立認定こども園について、条例4条の表に陵南認定こども園を追加し、また4月1日に新設移転する千種認定こども園については位置を変更するものである。あわせて、こども園に移行する岡山市立陵南幼稚園を廃止するため、附則において学校条例の一部を改正するものである。</p>
教育長 全委員 教育長 全委員 教育長	<p>○ 今の報告について何かご質問、ご意見はないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、承認してよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ では、承認する。</p> <p>続いて、第8号、これもこども園推進課から願います。</p>
こども園推進課長	<p>○ それでは、報告第8号についての説明をする。</p> <p>市議会の議決を経るべき議案、岡山市立学校条例の一部を改正する条例の原案への同意については、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、令和</p>

<p>教育長 全委員 教育長 全委員 教育長</p>	<p>3年1月28日に専決処理をしたものである。 内容については、令和3年4月1日に民間への移管によって岡山市立古都幼稚園及び浮田幼稚園を廃止するため、本条例の一部を改正しようとするものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何かご質問、ご意見はあるか。 ○ 〈なし〉 ○ それでは、第8号を承認してよろしいか。 ○ 〈承認〉 ○ 報告第8号を承認する。 <p>本日予定されていた議案については全て終了した。 以上をもって令和3年2月の教育委員会定例会を閉会する。</p>
--	---

傍聴の状況		
報 一	道 般	0名 0名